

ID	発症日	患者	感染経路	感染部位	病原体	検査結果	治療	経過	死亡	備考	論文題目	出典	概要
											HTLV	47 news. 2009 Jun 27	厚生労働省研究班は2006-2007年に初めて献血した全国約119万人を対象に、HTLV-1の調査を実施した結果、3787人の感染が確認され、国内感染者数は約108万人と推計した。約20年前の前回調査の120万人と比べて大きな変化はなかった。研究班班長である山口一成国立感染症研究所客員研究員は、感染者の地域別割合の高かった九州で減少し、大都市圏(関東・中部・近畿)で増加したが、これは感染者が多い九州からの人の移動が背景にあると指摘した。
											HHV-8感染	Journal of Infectious Disease 2009; 199(11); 1592-1598	米国内で輸血を介したHHV-8感染の調査を行った。供血者-受血者のペアを明確にした米国内調査を行うため、1970年代に登録されたTTVS (Transfusion-transmitted Viruses Study)の参加者にHHV-8血清学的検査を行った。HHV-8抗体陽性率は、供血者では2.8%、受血者では7.1%、輸血されず手術を行った対照患者では7.7%、カポジ肉腫のある対照患者では96.3%であった。1例の受血者はセロコンバージョンしたが、この患者にはHHV-8陽性の血液ユニットは輸血されなかった。また、輸血されず手術を行った対照患者1例もセロコンバージョンした。セロコンバージョン率は、受血者が1.6(1000人-年あたり)であり、輸血を受けていない手術を行った対照患者では3.6(1000人-年あたり)であった。輸血群と非輸血群におけるHHV-8セロコンバージョン率には統計学的な差はなく、かつ過去の集団の特徴(例:白血球除去施行前)は現在の輸血を介した伝播が稀であることを示している。
											ウイルス感染	ProMED-mail 20090218.0669	ナイジェリアでは、2008年1月から12月にかけて、229人のラッサ熱感染疑い患者が報告され、30人が死亡している。また、2008年12月~2009年1月に、感染疑い患者及び感染確定患者はそれぞれ60%及び80%増加している。
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA 2009 February 17	90498に同じ
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2009; 457; 1079	最近、非定型BSEが日本、カナダ、米国、複数のヨーロッパ諸国で発生している。非定型BSEの可能性のあるプリオン遺伝子の突然変異は豪州や新西蘭でも発生する可能性があり、反芻動物の厳密な飼料管理等、将来のアウトブレイクの防止に必要な規制を緩和すべきではない。
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96; 270	90527に同じ

ID	発症日	報告番号	製剤名	成分	生体組織	抽出部位	製造国	製造工程	動物	検体	検出	検査機関	検査結果	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20090108.0076	英国CJDサーベイランスユニットの統計によると、2009年1月5日時点でvCJD死亡患者数総数には変化はなく167例のままであり、英国におけるvCJD流行は減少しつつあるとする見解に一致する。
												BSE	OIE (http://www.oie.int/eng/info/en_esbmonde.htm)	1989年から2008年までに、世界各国(英国を除く)から国際獣疫事務局(OIE)に報告されたBSEの報告数である。
												BSE	OIE (http://www.oie.int/eng/info/en_esbru.htm)	1987年以前から2008年までに、英国から国際獣疫事務局(OIE)に報告されたBSEの報告数である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2009 May 21	英国イングランドおよびスコットランドで扁桃摘出術により摘出された匿名の扁桃腺検体を対象に、プリオン蛋白質(PrPCJD)に関連した陽性率をcross sectional opportunistic survey(随時横断調査)により調査した。2008年9月末までに63,007の検査を行い、このうち12,753検体は最もvCJDが発症した1961-85年の出生コホート由来であり、19,908検体はBSEに曝露された可能性のある1986-95年コホートから集められた。2種類の酵素免疫法両方に明確に陽性を示す検体は無く、276検体はいずれかの検査に初回陽性を示し、その繰り返し陽性率は15%であった。免疫組織化学法もしくは免疫ブロット法を行った結果、この276検体を含め、陽性を示す検体はなかった。1961-85年の出生コホート由来の扁桃腺検体におけるPrPCJD陽性率は0/32661であり、1961-85年の出生コホート由来については0であり、過去の虫垂組織の調査結果よりは低かったが、矛盾はなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 2009 June 5	90527に同じ
143	2009/10/2	90551	サノフィ・アベンティス	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	脱線ウマ血液	ウマ血液	フランス	製造工程	無	無	無			
144	2009/10/2	90552	サノフィパスツール第一三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ウシ心臓浸出液	ウシ心臓	米国	製造工程	無	無	無			
145	2009/10/2	90553	サノフィパスツール第一三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ウシ骨格筋由来成分(ペプトン)	ウシ骨格筋	オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	学術名	原料名	原産国	製造 区分	有 害	無 害	無 害	出典	概要
146	2009/10/2	90554	サノフィバ ツール第一 三共ワクチ ン	乾燥ヘモフィルスb 型ワクチン(破傷風 トキソイド結合体)	ペプトン	ブタ皮	米国及びカ ナダ	製造 工程	有	無	無	1)CDC/MMWR 2009; 58; 400-402 2)WHO 2009 June 11 3)WHO 2009 July 31 4)ProMED-mail 20090703.2391	1)2009年4月17日、米CDCはカリフォルニア南部の小児2例の熱性呼吸器疾患をブタインフルエンザA(H1N1)感染であると特定した。アマンダジン、リマンダジンに抵抗性があり、過去に報告されていない固有の遺伝子断片の組み合わせが含まれていた。ブタ接触歴は無く感染源は不明である。 2)2009年6月11日、WHO事務局長Margaret Chan博士は声明を発表した。WHOはインフルエンザパンデミックの警戒レベルをフェーズ5から6に引き上げ、世界は2009インフルエンザパンデミックの始まりにある。各国は高い警戒態勢を維持し、感染防御の実施などについて協力するよう呼びかけた。 3)2009年7月31日現在、IHR加盟国よりWHOへの公式な報告のあった、パンデミック(H1N1)2009感染の確定検査がなされた症例数について公表された。少なくとも1例のパンデミック(H1N1)2009確定診断を報告した国は168に上った。 4)2009年7月2日現在、日本でタミフル耐性を示す新型H1N1インフルエンザの遺伝子的変異株を初めて確認した。厚生労働省は患者のタミフル感受性は検査済みであると報告した。この患者は、2009年5月に新型インフルエンザ感染の確認がなされ、回復しており、年齢および性別は不明である。なお、世界で最初にタミフル耐性が認められたのは、デンマークであった。
												N Engl J Med 2009; 360; 2605- 2615	90473に同じ
												Science 2009; 325: 197	新型インフルエンザA(H1N1)の抗原的及び遺伝的特徴について示している。2009年4月に特定された2009A(H1N1)ウイルスは直近の系統との間に類似性が無く、長期間検出されずに循環していた。また、遺伝的多様性が低く、ヒトへの感染は類似ウイルスの単回もしくは複数回の感染であったことが示唆された。ヒトへの順応を予測する分子マーカーは、現在存在しておらず、未知の分子決定因子がヒトへの伝播を果たしてきた。抗原的には、北米ブタA(H1N1)ウイルスと類似し、季節性ヒトA(H1N1)とは区別される。
147	2009/10/2	90555	サノフィバ ツール第一 三共ワクチ ン	乾燥ヘモフィルスb 型ワクチン(破傷風 トキソイド結合体)	カゼイン酸 加水分解 物	ウシ乳	ニュージ ーランド	製造 工程	無	無	無		
148	2009/10/2	90556	サノフィバ ツール第一 三共ワクチ ン	乾燥ヘモフィルスb 型ワクチン(破傷風 トキソイド結合体)	ヘミン	ウシ血液	米国	製造 工程	無	無	無		
149	2009/10/2	90557	サノフィバ ツール第一 三共ワクチ ン	乾燥ヘモフィルスb 型ワクチン(破傷風 トキソイド結合体)	カゼインパ ンクレアチ ン消化物	ウシ乳	米国、 ニュージ ーランド、オ ーストラリア、	製造 工程	無	無	無		

ID	発症日	発症者	病原体	宿主	感染経路	産地	製造工程	有効成分	有	無	無	修正	感染性 (PT)	出典	概要
150	2009/10/2	90558	サノフィバ ツール第一 三共ワクチ ン	乾燥ヘモフィルスb 型ワクチン(破傷風 トキソイド結合体)	肉エキス	ウシ 肝臓及 び肺	フランス	製造 工程	無	無	無				
151	2009/10/2	90559	サノフィバ ツール第一 三共ワクチ ン	乾燥ヘモフィルスb 型ワクチン(破傷風 トキソイド結合体)	トリプトンV	ウシ 乳	ニュージ ーランド	製造 工程	無	無	無				
152	2009/10/2	90560	サノフィバ ツール第一 三共ワクチ ン	乾燥ヘモフィルスb 型ワクチン(破傷風 トキソイド結合体)	カゼインペ プチドN3	ウシ 乳	ニュージ ーランド	製造 工程	無	無	無				
153	2009/10/2	90561	サノフィバ ツール第一 三共ワクチ ン	乾燥ヘモフィルスb 型ワクチン(破傷風 トキソイド結合体)	スキムミル ク	ウシ 乳	米国及び英 国を除くヨ ロッパ	製造 工程	無	無	無				
154	2009/10/7	90562	富士製薬工 業	ヒト絨毛性性腺刺 激ホルモン	ヒト絨毛性 性腺刺激 ホルモン	妊婦の尿 抽出物	中国	有効 成分	有	無	無		レンサ球菌 感染	日本感染症学会 第83回総会 P225 O-173	90479に同じ
													新型インフル エンザ (H1N1)	WHO/WER 2009; 84; 173-184	新型インフルエンザ(H1N1)が発生し、警戒レベルは2009年4月 29日にフェーズ5まで引き上げられた。5月12日時点では、30カ 国、5251例の感染例がWHOに報告されている。
													ウイルス感 染	ProMED-mail 20090515.1821	ヒトにおける初のシカダニウイルス感染例の報告(出典NEJM)。 ニューヨークの62歳男性がシカダニウイルスに感染したシカダ ニの咬傷を受けた後、髄膜脳炎で死亡した。
													異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Emerg Infect Dis. 2008; 14; 1406- 1412	263Kスクレイパーの臨床症状を呈するハムスター22匹の尿に TSE感染性があることが示された。これらの動物の腎臓と膀胱 のホモジネートは20000倍以上希釈してもTSE感染性があった。 組織学的、免疫組織化学的分析では、腎臓における疾患関連 PrPの散発的な沈着以外、炎症や病変は見られなかった。尿中 のTSE感染性が、自然のTSEの水平感染に何らかの役割を果 たす可能性がある。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有成分	交配	金箔	適正使用期限	感染症(P1)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Journal of General Virology 2007; 88: 2890-2898	ハムスタースクレイピープリオン株Sc237をハムスターに脳内接種し、終末期のハムスターの尿中からPrPsc(misfolded prion protein)をPMCA法を用いて検出した。TSE感染動物から尿中PrPscを検出した初の報告である。終末期に採取したバフィーコートおよびプラズマ中においてもPrPscが検出された。また、経口投与した場合には、投与後103-166日のプラズマ、バフィーコートおよび脳中にPrPscを検出し、投与後4日で尿中に排泄されるが、その後終末期まで尿中PrPscは検出されなかった。プラズマおよびバフィーコート中と比べて尿中PrPscの検出にはタイムラグがあり、また、終末期にあっても尿中PrPscが検出されない個体もあった。TSE感染動物から尿中PrPscを初めて生化学的手法を用いて検出した報告である。
155	2009/10/7	90563	富士製薬工業	トロンピン	トロンピン	ウシの血液	オーストラリア、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
156	2009/10/7	90564	富士製薬工業	トロンピン	トロンボプラスチン	ブタの肺	デンマーク	製造工程	無	無	無			
157	2009/10/7	90565	デンカ生研	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ハートエキス	ウシの心臓	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
158	2009/10/7	90566	デンカ生研	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド	カザミノ酸	ウシの乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	無	無	無			
159	2009/10/7	90567	デンカ生研	ウイルス病秋やみ混合ワクチン コレラワクチン	ポリペプトン	ウシの乳	中国又はポーランド	製造工程	無	無	無			

ID	発症日	患者	製薬会社	ワクチン名	生産原料	原料原産地	製造国	製造工程	ウイルス	感染	適正使用情報	感染症(PID)	出典	概要
160	2009/10/7	90568	デンカ生研	沈降精製百日せき ジフテリア破傷風 混合ワクチン 沈降ジフテリア破 傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソ イド 沈降精製百日せき ワクチン ジフテリアトキソイ ド コレラワクチン	スキムミルク	ウシの乳	日本又はア メリカ	製造 工程	無	無	無			
161	2009/10/7	90569	デンカ生研	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワク チン	ラクトアル ブミン水解 物	ウシの乳	ニュージ ランド又は オーストラ リア	製造 工程	無	無	無			
162	2009/10/7	90570	デンカ生研	日本脳炎ワクチン	ウシ胎児 血清	ウシ胎児の 血液	アメリカ	製造 工程	無	無	無			
163	2009/10/7	90571	デンカ生研	インフルエンザHA ワクチン インフルエンザワ クチン	尿膜腔液	ニワトリの 受精卵	日本	製造 工程	無	無	無			
164	2009/10/7	90572	デンカ生研	沈降精製百日せき ジフテリア破傷風 混合ワクチン 沈降ジフテリア破 傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソ イド	ペプトン	ブタの胃	日本又はア メリカ	製造 工程	有	無	無	インフル エン ザ	GDC/MMWR 2009; 58 (Dispatch); 1-3 (2009 April 21)	2009/4/17米CDCはカリフォルニア南部の小児2例の熱性呼吸器疾患をブタインフルエンザA(H1N1)感染であると特定した。アマンドジン、リマンドジンに抵抗性があり、過去に報告されていない固有の遺伝子断片の組み合わせが含まれていた。ブタ接触歴は無く感染源は不明。
												新型イン フル エン ザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58 (Dispatch); 1-3 (2009 April 28)	ブタ由来インフルエンザA(H1N1)ウイルス(S-OIV)感染に関する米国および他国における更新情報がCDCより報告された。2009年4月28日現在、米国では感染者総数は64例、カルフォルニア州(10)、カンザス州(2)、ニューヨーク州(45)、オハイオ州(1)およびテキサス州(6)であった。CDCと州・地方保険局は報告された国内症例全例について症状および疫学調査を実施しており、4月27日に更新されたS-OIV感染の定義を示した。CDCに報告のあった年齢が既知の47例は、年齢中央値は16歳、81%が18歳以下、約半数は男性であった。現在までに国内症例で死亡はなく、5例が入院した。また、4月27日、FDAは緊急使用を認める4つのEUA(オセルタミビル、ザナミビル、N95レスピレーターおよびrRT-PCRブタインフルエンザパネル)を公表した。

ID	受理日	番号	報告者名	製品名	生物由来	原料種名	原産国	含有成分	文庫	有効成分	真正使用情報	感染症(PT)	出典	概要
												新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58 (Dispatch); 1-3 (2009 April 30)	2009年3月から4月上旬にかけてメキシコで呼吸器疾患のアウトブレイクが発生した。3月1日から4月30日までに合計1918例の重症呼吸器疾患症例が報告され、うち286例がインフルエンザA陽性、97例がRT-PCRにより新型インフルエンザA/H1N1と確定された。死亡例は合計84例が報告された。このインフルエンザウイルスはカリフォルニアの小児患者2例から同定されたウイルスと同一の株であることが判明した。
												新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; 453-458 (2009 May 8)	世界各国における新型インフルエンザA(H1N1)ウイルス感染の更新情報をCDCが報告した。2009年5月6日現在、総計21カ国において1882例の新型インフルエンザA(H1N1)ウイルス感染が確認された。4月29日にWHOはパンデミック警戒レベルをフェーズ4から5へ引き上げ、少なくとも2カ国ではヒト-ヒト間におけるウイルスの感染が起きている。メキシコでは、11,932例の疑い症例、949例の確定症例が報告され、うち42例は死亡に至った。米国では、5月6日現在、642確定症例および845疑い症例 (probable cases)が43州から報告された。他国においては、4月26日に、米国およびメキシコを除いて最初に新型インフルエンザA(H1N1)感染が報告されたのはカナダであった。5月6日現在、WHOはメキシコおよびアメリカを除く21カ国において309例の確定症例を報告した。
		90572										新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58 (Dispatch); 1-3 (2009 May 12)	2009年4-5月、米国で新型インフルエンザA(H1N1)ウイルスに感染した妊婦3例について、CDCは症例経過を報告した。5月10日までに米国内で新型インフルエンザA(H1N1)に感染した妊婦は20例に上った。データとして使用可能な13例の年齢中央値は26歳で、3例が入院し、うち1例は死亡した。妊婦が新型インフルエンザA(H1N1)ウイルスに感染した場合には抗ウイルス薬を5日間服用する。望ましい治療薬はオセルタミビルであり、発症してから48時間以内の服用が望ましい。
165	2009/10/7	90573	デンカ生研	沈降精製百日せきワクチン	ヒツジ血液	ヒツジの血液	不明	製造工程	無	無	無			
166	2009/10/7	90574	デンカ生研	ワイル病秋やみ混合ワクチン	ウサギ血清	ウサギの血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
167	2009/10/7	90575	デンカ生研	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウスの脳	日本	製造工程	無	無	無			
168	2009/10/7	90576	東菱薬品工業	バトロキソピン	バトロキソピン	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無			
169	2009/10/7	90577	東菱薬品工業	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	ウサギ皮膚	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			

品名	製造年月	製造番号	製造会社	成分	原料	産地	有効成分	無	無	無	感病性(%)	出典	概要	
170	2009/10/7	90578	日本化薬	乾燥BCG膀胱内用(コンノート株)	生きたカルメット・ゲラン菌(BCG・コンノート株)	牛型結核菌生菌	カナダ	有効成分	無	無	無			
171	2009/10/9	90579	日新製薬	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタの小腸	中国	有効成分	有	無	無	新型インフルエンザ(H1N1)	1)WHO Disease Outbreak News 2009 April 24 2)WHO Swine influenza-update3 2009 April 27	1)2009年4月24日、米国政府は米国内でブタインフルエンザA/H1N1に感染したヒト7例の確定症例および9例の疑い症例を報告した。確定された7例全例は軽度のILI(Influenza-Like Illness)を呈し、1例が短期入院し、死亡例はなかった。メキシコ連邦区では3月18日から症例を取り上げた監視を始め、4月23日現在、首都では854例を超える肺炎例が報告され、うち59例が死亡した。メキシコ人症例のうち、18例はカナダでブタインフルエンザA/H1N1であると確定診断がなされ、12例はカリフォルニア由来のブタインフルエンザA/H1N1と遺伝学的に一致した。WHOは引き続き米国、メキシコおよびカナダ当局と連絡を取り、これらILI症例のリスク把握に努める。 2)2009年4月27日現在、米国政府はブタインフルエンザA(H1N1)に感染したヒト確定症例40例を報告した。死亡例はなかった。メキシコでは26確定症例を報告し、うち7例は死亡例であった。カナダは6症例を報告したが死亡例はなく、スペインは1例で死亡例はなかった。
172	2009/10/9	90580	日新製薬	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	新型インフルエンザ(H1N1)	1)WHO Disease Outbreak News 2009 April 24 2)WHO Swine influenza-update3 2009 April 27	90579に同じ
173	2009/10/9	90581	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胸腺細胞	ヒト胸腺	ベルギー、スペイン、フランス、イタリア、リトアニア、ポーランド、ノルウェー、デンマーク、スウェーデン、フィンランド、スロバキア、チェコ共和国	製造工程	無	無	無			
174	2009/10/9	90582	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	ウマ血漿	フランス	有効成分	無	無	無			
175	2009/10/9	90583	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	赤血球ストローマ	ヒト血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
176	2009/10/9	90584	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胎盤組織	ヒト胎盤	フランス	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来	原料名	原産国	含有成分	有効成分	有	無	無	無	感染症(P1)	出典	概要
177	2009/10/9	90585	ニプロファーマ	ヘパリンナトリウム注射液 ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国、アメリカ、カナダ、オーストラリア	有効成分		有	無	無		エボラ出血熱	WHO/EPR 2009 March 31	2009年2月16日、フィリピン政府からの発表によると、豚に日常的に接触のある処理施設の労働者1例にEbola Reston virus(ERV)抗体に陽性反応が認められた。これにより6例が、2008年12月の検査開始以降、フィリピン国内でERV抗体陽性となった。この6例すべてが仕事で豚に触れている。フィリピン保健当局は、陽性反応を示した6例すべては健康であり、豚からヒトへの移行が感染源として最も可能性が高いとしている。
178	2009/10/9	90586	テルモ	-	ヘパリン	豚小腸粘膜	米国、中国	有効成分		有	無	無		新型インフルエンザ (H1N1)	OIE 2009 May 5	カナダにおけるA/H1N1インフルエンザ:発生日 2009年4月21日、最初の確定日 2009年5月1日、報告日 2009年5月2日、原因 新型A/H1N12009インフルエンザウイルス。2009年4月21日にALBERTA Clearwater州でA/H1N1インフルエンザのアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ3013頭、発生頭数ブタ450頭、死亡例0頭であった。発生農場では全ての家畜が処分された。
														新型インフルエンザ (H1N1)	OIE 2009 July 9	アルゼンチンにおけるA/H1N1インフルエンザ:発生日 2009年6月15日、最初の確定日 2009年6月24日、報告日 2009年7月8日、原因 新型A/H1N12009インフルエンザウイルス。2009年6月29日にBUENOS AIRES Canuelas CanuelasでA/H1N1インフルエンザのアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ6104頭、発生頭数ブタ1632頭、死亡例0頭であった。発生農場では全ての家畜が処分された。
														インフルエンザ	OIE 2009 July 31	オーストラリアにおけるA/H1インフルエンザ:発生日 2009年7月24日、最初の確定日 2009年7月31日、報告日 2009年7月31日、原因 インフルエンザA H1サブタイプ。2009年7月24日にNew South Wales地方New South Wales中西部でインフルエンザA H1サブタイプのアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ1950頭、発生頭数ブタ100頭、死亡例0頭であった。発生農場では全ての家畜が処分された。
														口蹄疫	OIE 2009 May 15	中国における口蹄疫:発生日 2009年4月28日、最初の確定日 2009年5月14日、報告日 2009年5月15日、原因 口蹄疫ウイルス アジア1型。2009年4月28日にGUANGXI省 Guilin地区 Lingchuanで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ウシ40頭およびブタ60頭、発生頭数ウシ1頭、死亡例0頭であった。発生農場では全ての家畜が処分された。
														口蹄疫	OIE 2009 May 25	台湾における口蹄疫:発生日 2009年5月25日、最初の確定日 2009年5月20日、報告日 2009年5月23日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2009年5月18日にPING-TUNG Yanou townshipで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ13176頭、発生頭数ブタ280頭、死亡例0頭であった。